

新著紹介

○内外蒙古の横顔

玉井莊雲著 菊版三一二頁

圖版四十一葉 七月 東京市外落合町海外社發行

定價二圓八十錢

著者は畫家であつて在蒙七年、内外蒙古を遍歴して風物を描寫すると共に異風奇俗を觀察した。其の冒險的遊歴中逍遙から開魯赤峰を経て林西に達し興安嶺を越えてやがて内蒙古に入らんとするまでの旅行記を流暢な筆で書いたものが本書である。見聞を記すうちにも、蒙古全域に亘る綜合した記述を挿入であるから蒙古の現状は手に取る様に列る。然かも多くの描畫は奇拔な旅行記を補つてゐて、全部六號活字で組まれた本書を少しの怠惰なしに通讀することが出来る。寧ろこの稀に見る旅行記は一大奇書とすることに足るもので異域の風物奇習を知ると共に内蒙古地理の全體を知るに役立つものである。もし愉快に容易に地理を學ばんとする人あらば本書は其の尤なるものであると云へる。紹介子はヴィヴィッドな蒙古知識をこの一書を得て初めて知得したことを告白する。

(S)

○英和和英鑛物辭典

代表編者 理學博士木下龜城

横一〇 縦一九 判 英和四三七頁 和英一二八頁

表 一三頁 昭和六年十一月二十日發行

綜合科學出版協會 定價三圓五十錢

編者は木下の他に石井清彦、青山信雄、赤木健、村山賢一、佐藤戈止、鈴木達夫の諸氏、氣の揃つた同志で我地質鑛物學界に於ける中堅である。従つて新しい語は廣く集められ適切に解釋せられてある。此點本辭典の最も特色とする所であらう。前記の頁數に知る如く英和の部が最も大きい。鑛物岩石の種類名稱、術語及び地質學上の術語を普通の辭引の如くABC順に列べ、日本に於ける最適の譯語と簡にして要を得た説明が附せられてある。日本語にして外國の書に引用されたる語はイタリックにて加へられてゐる。例へば固有の石材名の如きである。和英の部は英和の部に出た語を逆に引くに便したもので勿論説明は略されてある。日本語はヘボン式ローマ字でABC順に配列されてあるから樂に引く事が出来る。此辭典は百科辭典の如く詳しい説明がしてあるのではない。また其必要は性質上無いのであつて編者が主にハンディである様に心掛けたと思はれる。であるから此辭典によつて鑛物學を新に學ばうとするのは無理だ。自分は一通り鑛物學は習つたが一寸思ひ出せない語にぶつかつたといふ時にすぐに簡明なる概念と思ひ出とを起さしむるに最も効あるものである。故に總ての鑛物教育關係の人は勿論鑛業關係の人は此一書を座右に備ふるならば便益此上なしである。紹介者も學校で鑛物學を習つてからあまり此方は勉強しないが地學に關する外國の雜誌等を讀んで時々珍しい鑛物名にぶつかる事がある。先日

も今は忘れたが二三の鑛物名があつて何だか判らなかつた。何時もならばデーナのシステムを見に圖書室まで出向かねばならない所、恰度本書が編者より贈られたので試みに引いて見るとちゃんと出てゐる。化學成分が分子式で表はしてあり主な特徴が要約されてあるので文意も自ら明かになつた。其時之は便利な本だと感じた。しかるにある先輩に聞くと極珍しい鑛物名が缺けてゐるが著者が新人連だけあつて新しいものは良く出てゐるとの評であつた。此先輩は鑛物學の大家だから可なり特別な鑛物に明るい。此様な人の満足すべき程度の書はまづ今日では出版不可能である。本書が一般の用には最も便なるは重ねて推賞してよいと思ふ。しかしハンディとして本書の大いさはどうだらうか。此位が手頃かもしれないがもし大に賣れたならば一つポケットに入る位の縮刷版をも出して欲しい。また鑛物學ばかりでなく地史に關する事、地形に關する事も加へて欲しいものだ。もつとも幾萬とある化石の學名を盡すのは無理な注文ではあるが、せめて示準化石名や、有名な化石の屬名、各國の地層名もあつたら良い。今一つ慾を言ふと英和辭典である以上、發音をも附してあつたら有益だと思ふ。また語源の説明があれば理解を助けるだらうと信ずる。(J、M)

○最新世界航空大觀

陸軍航空本部第三班編纂
東京厚生閣發行 定價四圓八十錢

昭和六年十一月九日

航空部の野田青柳兩少佐の編述であつて、第一篇航空發達

雜報

史、航空機の用途、飛行機及發動機の構造、航空機用器具、同航空研究の新方面を略述し第二篇は軍事航空篇であり各種飛行隊の機能、都市爆撃、國土防空、列國空軍を論じ第三篇は民間飛行に關して航空輸送、列國民間の航空現狀、飛行船の狀況をしるしてある、世界主要定期航空路圖三葉が附録としてあつて現代の航空界をしるのに良い參考書である。(F)

○人種學各論前編

小山榮三著 圖書院發行

昭和六年十月廿日 定價五圓五十錢

本書は人類學叢書の中に於て人種學總論と各論二篇とを以て完成するもので、その中の一である、菊版四八三頁の大冊であつて挿圖と地圖と共に豊富である、本書は人種誌の方法論と歐洲、前方亞細亞、地中海圈、アフリカ、印度、濠洲太平洋圈にわたつて記述されてゐる、東方アジア北方アジアはまだ入つてゐないけれども、我等に交渉の多いヴェネダ、ネグリト、インドネシア及南洋のメラネシア、ポリネシア、ミクロネシアにわたつて興味のふかい記述がある、予は近頃この書程心をひきつけられた書籍はないといふことを告白して、校閱者及著者に深い感謝を捧げたいと思ふ。(藤田)

雜報

○南米西岸の地理的特徵

南米大陸の外形は直角三角形をなして居るが、南緯五度邊の東西に互る横斷面も亦三

宅 六七